

福岡県立ひびき高等学校 令和2年度 学校自己評価表 (定時制課程)

(計画段階・実施段階)

福岡県立ひびき高等学校長 印

17

学校運営計画(4月)

評価(3月)

学校運営方針

校訓「自助・自敬・信愛」のもと、単位制・三部制の特性を活かした教育活動をととして、生徒の個性・能力を伸ばし、豊かな感性と創造力を養うとともに、社会の一員としての強い自覚と実践力「生きる力」を身に付けた人間性豊かな生徒の育成を目指す。

昨年度の成果と課題

年度重点目標

具体的目標

単位制・三部制高校としての本校の存在意義は地域において一定の評価を得ている。さまざまな学びのスタイルとサポートが提供されていることに対する期待は大きい。
 新学習指導要領の本校における「全面実施」年度である令和4年に向けての最終年度としての準備を推進し、生徒・保護者及び地域社会に信頼される学校づくりに取り組む必要がある。
 また、生徒が「何を考え」「何ができるようになるか」を明確化し、「考える力」「学ぶ力」「コミュニケーション能力」を身に付け、生涯にわたって思考し学び続ける生徒の育成を目指す必要がある。

授業改善	「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有する。 基本的な知識・技能を習得させ、思考力・判断力・表現力等を育成するとともに学びに向かう力や人間性を涵養する。
心の教育の推進	HR活動、体験活動や地域との交流を通して心の教育を充実させ、規範意識、人権意識、倫理観、道徳心、情報リテラシーなどを醸成する。
学びあい、支えあう教職員集団作り	日々の教育活動や雑談を通じて互いに高めあい、教師力・学校力を向上させる。
「令和4年改革」への準備や先行実施をととした教育活動の改善	本校の地域における存在意義を確立しながら、「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」等の理念を実現するための教育活動をして実施していく。
SDGsの推進	環境教育、国際理解教育を推進し、地域活動や生徒海外研修などの交流活動に積極的に参加する。 社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深め未来の創り手となる自覚を育成する。

B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	教務部 ○単位修得率を80%以上を目指す ○広報の充実を行う ○連携強化	不断の授業改善や学習環境を整えることで学習意欲向上に繋がり、学びに向かう力を育てていく。教育課程や時間制・教務支援システム等の見直しを行い、より良い学習や生徒理解に努めることができるようにする。 入試相談がより適切に行えるように、研修会等でスキルアップする。中学校訪問や体験入学会、HP更新等を効果的に情報の発信を行う。 職員の連携強化を目指す。業務の円滑化・情報共有のために、早く正確な月別行事予定を作成する。図書教育を活性化する。保護者教師会や同窓会とも適切に連携を深める。	B	○新教育課程への移行前夜を迎え、教育課程編成や教科書採択などのミスや遅滞が許されない業務が次々と迫る中、同時に、日々の出欠管理や定期考査運営、成績処理等の「何事もなく当たり前」な業務を遺漏なく進めなければならない、マンパワーと神経を非常に要する1年となる。また、収まらない感染症や猛威を増す風水害に伴う休校等の授業措置への対応も、今年度同様フレキシブルに行っていかなければならないことが予想される。そのような中、教務課が本当にやる必要がある業務とは何なのか、削減・移譲すべき業務があるのではないかとという視点に立ち、教務課の教員の負担軽減を行い「持続可能な教務課」を実現する必要がある。 ○入試業務研修会は、本校の特徴である教育課程・単位登録や認定・評価について研修する場、という位置づけで来年度は名前を変えて実施したい。 過去3年間の参加者・アクセス数の推移は以下の通り(30→31・元年→令和2)。学校説明会(260→282→356)、体験入学(324→376→334)、ページアクセス(70000→71470→162005)。高校説明会2校(前年度12校)、どこでも相談会3校。本年度は感染症のために、高校説明会を開催しない中学校が多数だった。本年度は進路相談事業の中止を補う情報提供の機会として「どこでも相談会」を実施した。次年度の感染症の状況は分からないが、中学校訪問と相談会の時期の重複は職員の負担が大きい。相談会の告知を早め相談会と訪問を1つにまとめるようにしたい。本校の地域における認知度は十分にあると思われる。課題としては、伝える方法の工夫と共に、認知される中身が「今後どのような方向に進む学校なのか」の整理と実践だと思われる。 ○月別行事予定に関しては、計画通りに回覧・起案・配付を行うことができた。また、事務室前のディスプレイの変更も確実に行った。年度当初から、感染症の影響で行事や予定の変更が多くあった。次年度も状況に応じた適切な対応ができるよう、見直しを立て、業務を行っていききたい。学校図書館の利用マナーは概ね良好である。感染症の影響で、1テーブル2名の制限を設けたこともあり、授業での利用は減少した。今後も状況を見ながら、しっかりとした対策を講じ、利用しやすい環境づくりを心がけたい。
		教務課	一部欠課の抑制や欠課時数オーバーの未然防止などに努め、出席率向上にいつそう力を入れる。 生徒が授業に対して主体的・前向きに取り組めるよう、講義室等の学習環境を整える。 生徒が授業に集中して臨めるよう、授業規律を向上させる取り組みを実施する。	
	入試広報課	より良い教育課程や時間制の構築を目指し、教務課内で検討を行う。 単体制・三部制の特性を再確認し、生徒および外部に対して積極的に周知理解を促す。 教務関係の諸様式やシステム、手続き等を見直し、より簡略化・明瞭化する。	A B B	
	入試広報課	入試業務研修会を年1回(週2コマの枠を設けて)実施する。 教務部の入試相談・願書配付の研修を3回行う。 入試相談割を年2回、願書受付割を年4回(後期・1期・II期・転編)作成する。 中学校訪問を年1回行い、中学生進路相談事業(2・3学区)に参加する。 学校説明会と体験入学会を年1回実施し、中学校の高校説明会に20校以上参加する。 ポスターと学校案内パンフレットを年1回作成し、学校HPを年100回以上更新する。	B B B B B	
	庶務課	他分掌との連絡・調整を密にし、業務や行事の円滑化を図る。 月別行事予定を1ヶ月前に知らせる。 前年度の反省点を踏まえ今年度の計画を立案する。 学校図書館の活用や視聴覚機材を活用した授業の促進。 役員会や執行委員会への積極的な参加を促し、保護者との連携を図る。 総会出席率と委任状回収率の向上を目指す。	B A B B B B	
	生徒指導部	学校行事やHRの内容を充実させ年次指導を支援し、生徒一人一人の規範意識・人権感覚・道徳心の育成を図るとともに、不登校・中途退学の防止・いじめの未然防止につなげる。	A	
	生徒指導課	規範意識育成学習を15項目以上実施し、心の教育を推進する。 「マナーアップひびき」を毎年実施し、問題行動未然防止を図る。 特別指導にて迅速かつ柔軟な対応により生徒の倫理観を育成する。 学校行事の充実を図り、生徒の本校への帰属意識を醸成する。 ボランティア活動を活性化し、年間登録者20%増を達成する。 学校行事に留まらず、地域で活躍できる生徒会人材を育成する。	B A A B B	
	修学課	不登校や中途退学の未然防止・抑制の情報共有と支援体制の強化 いじめアンケートは毎月1回、家庭用チェックリストは年2回行う。 修学課会議、生徒情報交換会で情報の共有を図る。 昨年度30%ルール抵触生徒の管理職面談を行う。 研修部と連携して生徒理解・教育相談の研修会を年2回行う。 本校の専門職や外部の相談機関との連携を図る。	B A A B A A	
	保健課	清掃活動等、教育環境の整備に向けた取り組みを図る。 掃除道具の点検・整備を前後期1回実施し、校内美化活動を充実させる。 環境整備についての意識付けを図るよう各講座やHRでの呼びかけを行う。 諸検診が円滑に実施できるようにし、受診率100パーセントを目指す。 健康増進に向けた研修会や防災訓練、健康教室を実施する。 個々の生徒に寄り添うため、教員間での情報の共有を図る。	B B B B A A	

ガイダンス部	ガイダンス部	自己を見つめ可能性を発見し、進路について関心を高めさせる。 目標とする進路に関して理解を深め、進路実現へ向け学ぶ力を育む。		B		
	ガイダンス課	進路ガイダンス行事を積極的に活用する生徒の育成	事前指導の2回以上の実施	B	B	
			講座の入れ替え（3講座以上）および時間帯の再考 時間割作成につなげる事後指導の実施	A		
		進路実現のための適切な時間割作成ができる生徒の育成	校内研修会の3回の実施	B		
			ガイダンスプロジェクトの活性化 学習ガイドブックの改訂・見直し	A		
	進路指導課	将来の進路を主体的に考え、自ら学ぶことのできる生徒の育成	進路目標の早期設定	B	B	
			HR活動における進路指導の充実 模擬試験の受験推進と結果分析、事後指導	B		
		卒業後の進路のために必要な情報を入手し、学力の向上を図ることができる生徒の育成	個別指導の推進と体系化	B		
			長期休業中における特別講座の充実 生徒、保護者への進路情報提供	A		
	進路渉外課	社会の一員としての高い自覚と健全な勤労観・職業観を持つ生徒の育成	インターンシップ（在学年次）内容の改善	A	A	
			進路学習として講演会の積極的活用 就職内定率の向上（2月末に90%以上）	B		
		長期的視野に立った進路意識を持った生徒の育成	奨学金制度の周知・活用	A		
資格取得率、検定合格率の向上 オープンキャンパス等の紹介および積極的活用			B			
研修部	研修部	生徒にさまざまな学びの方法を提供することができるよう、教職員の専門的資質を高める支援等の充実を図る。 研究授業や相互授業参観、生徒による授業評価を通して、生徒が「何について考えるか」を明確にした授業実践の充実を図る。 生活体験発表等行事の効果的な実施により、本校で学ぶ意義や喜びを実感させていながら「学びに向かう力」の育成を図る。 各分掌等との緊密な連絡調整を図りながら、「総合的な探究の時間」の創設を推進し、「令和4年改革」への準備を進めていく。		B		
	研修課	授業改善の推進	授業改善研修会〔ひびきスキルアップ研修会〕（年3回）の充実	B	B	
			生徒理解を深める研修会（年2回）の実施 授業改善に向けた校外研修の企画・推進	A		
		授業力・教師力の向上	相互授業参観（年2回）の充実と参加率の向上 授業評価（年2回）の評価項目の改善・充実 研究授業の充実	B		
				A		
	探究課	「総合的な探究の時間」の充実	「総合的な探究の時間」の試行計画・実施（年6回） 令和4年改革に向けての準備の推進	A	B	
			対話的な研修を通じた「教師力」の向上	B		
		SDGsの推進・探究活動の実践	探究する力の育成を目指した環境教育の推進 探究する力の育成を目指した国際理解教育の推進	A		
			学校設定科目などにおける探究活動の実践・研究	A		
	年次部	年次部	規範意識を確立させ、基本的な生活習慣を身に付けさせる。生徒一人一人の自己実現に向けて、自ら学ぶ態度及び自ら考え行動できる資質を養う。年次の教員間および保護者との連携を緊密に行い、迅速かつ生徒にとって適切な対応を心がける。		B	
		新入年次部	自主・自律の精神を涵養し、基本的な生活習慣や社会人としてのマナーを身につけさせる。	規範意識を身につけさせ、問題行動の抑制・防止	B	B
				修学課等との連携を強化し、不登校生徒の早期対応に努め、中途退学者を減少（前年度比10%減）させる。 学校行事や成績、出席に関する情報をタッチパネルで行い、活用率を前年度比20%向上させる。	B	
自敬の念を育み、自己の将来像を具体的に描く力を身につけさせる。			電話連絡・家庭訪問・保護者面談等を通じて家庭との連絡を密に行い、授業出席率、単位修得率を80%以上に向上させる。 進路希望調査、近未来ガイダンス、受講ガイダンスを有効活用し、特にHR活動を通じて自己の興味、適性を認識させる。	A		
			年次通信を定期的（年8回）に発行し、家庭との連携を図る。	B		
在学年次部		学習指導の充実を図り、授業出席率75%以上、中途退学者や問題行動の前年比10%減を目指す。	規範意識を向上させ、問題行動の抑制・防止に努める。 修学課、SC、SSW、訪問相談員との緊密な連携を図る。	B	B	
			個人面談・保護者との連携・家庭訪問を適切に行う。 校外模試・検定試験・インターンシップ・ボランティアへの積極的な参加（前年比10%増）を促す。	A		
		自主・自立の精神を涵養し、自己管理ができる生徒を育成する。	タッチパネル指導を行う。 年次通信を定期的（年8回）に発行し、家庭との連携を図る。	B		
				B		
卒業年次部		年次部職員全員で生徒の個性や能力・適性に応じた指導をすることで、希望進路を実現する。	個人面談を随時行う。 HR・総学の時間に進路学習を5回実施する。 年次通信を7回発行する。	B	B	
			進路面接を3回以上組織的に実施する。 就職模試、校外模試等を積極的に受験させる。 人権学習等を活用し、人権意識を涵養する。	A		
		様々な機会を利用して生徒の自己管理能力を高め、社会人としての実践力を身につけさせる。		B		
			B			
					<p>○進路行事は実施時期の大幅な変更を迫られたものの、教務部と連携を取りながら消費者教育講座と同日の実施となり、行事の精選・効率化を図ることができた。参加した生徒にとっては実りあるものとなったが、出席率80%の目標は達成できなかった。次年度はホームルーム計画の一環として時間をかけて意識を変えて積極的な参加を促していきたい。</p> <p>時間割作成においては令和4年度新教育課程や成年年齢の引き下げ等により、大幅な変更を行なった。この件を検証しつつ、単位制におけるガイダンスが担う役割を生徒に正しく理解させ、どのように指導していくかを全職員で共通認識を持てるようにしたい。</p> <p>○進学、就職共に卒業年次になってから進路について考えるのは遅すぎる。次年度は新入年次より入試の仕組みや勉強の仕方、就職の流れや求人票の見方などを指導し、本校の先輩たちがどのような進路選択をしているか話をし、進路学習を行ってほしい。また、進路指導課と年次で連携し、誰でも進路指導ができるように情報提供を行ってほしい。</p> <p>○就職試験日が1ヶ月遅れたことにより、生徒の就職率等に影響が出ると思われるが、卒業年次担任や就職指導員、ハローワークとの連携により、例年より早く就職が確定している生徒が多い状況となった。次年度では、新入年次から卒業年次までの一貫した就職指導を実施し、早期から職業に対する意識を高めさせ、高校生活の過ごし方について指導をしていきたい。また、Ⅲ部の生徒については、新入年次からハローワーク登録をし、正社員・アルバイトの転進を促すとともに健全な労働環境整備に努めていきたいと考えている。</p>	
					<p>○生徒理解に係る研修については、次年度も生徒の現状を踏まえた具体的な内容を計画立案し、継続して実施していく。学習指導に係る研修については、各先生方の授業改善に対する高い意識を、より効果のある実践に結び付けるための内容・方法を検討し、実施していく。</p> <p>授業アンケートについては、モバイルでのアンケートを取り入れたことによって実施しやすくなったと思われるので、今後さらに実施率の向上を図っていく。</p> <p>○「総合的な探究の時間」の令和4年度講座化に向け、授業計画を作成する。また令和3年度の指導案の作成・実施を進める中で、「探究」とは何かについて職員の間で共通理解を深める。令和4年改革の一つである、探究的な学びを「総合的な探究の時間」と各教科が総合的・横断的に機能する方策を考え、実施する。今年度は、SDGs講演会は実施できなかったが、学校行事の中で個別の取組が実施できた。今後SDGsの視点での学びの在り方について、生徒と共に探究したい。ユネスコスクールとして、環境教育・国際理解教育の在り方についても探究的な学びが深まるように、再検討していく。</p>	
					<p>○規範意識とは、自由とは、自己責任とは…本校で頻繁に使われる言葉ではあるが、生徒にその本質的な意味を伝えきれていない現実がある。特に感染症により世界中が新しい価値観、新しい生活様式に変容していく中で、上記の3点はこれまで以上にその理解とそれに伴う行動が求められている。他校にはないひびき高校の特徴を最大の利点として、自立した大人の思考や感性を磨かせたい。また、休校等の影響で生徒が進路について考える機会が不十分であった。担任との面談時間を学校が保障し、生徒が自らの生き方を深く考えることで上記3点への理解を更に深めていくことが理想である。</p> <p>○特別指導が少なかったのは評価できるが、規範意識とは何なのかを伝えきれておらず、基本的なマナーをもう少し指導する必要がある。生徒への適切な対応を行うために教員間・専門職との情報共有を強化することができたが、その後の経過を丁寧に見ていくことで継続性を持たせたい。コロナ禍だったという理由もあるが、全体的にインターンシップやボランティアの意識や希望が低く、検定試験や模試も同様であった。これらの有用性についてしっかりと話をする機会を設けたい。タッチパネル指導の一環として、担任から出席時数等を伝えずにタッチパネルを自ら調べさせることも必要かもしれない。39メールなどを活用して、情報を自分で収集し、活用する指導がこのコロナ禍で特に必要性を感じている。</p> <p>○今年度の授業開始が5月下旬からとなり、進路学習等の計画・予定が大きく変更となったが、年次だけでなく教科等の指導を含め年次を越えた全職員の協力により、進路実績等は例年と変わらない状況である。また、様々な理由があるが退学・休学や卒業延期の生徒数が例年よりも改善されている。面接指導は概ね協力して実施できていたが、違反質問等に対応できない生徒も見られた。後期のHRでは卒業後に備えた内容を実施した。</p>	